

8. 福井城跡 (えちぜん鉄道地点)

所在地：福井市大手2丁目

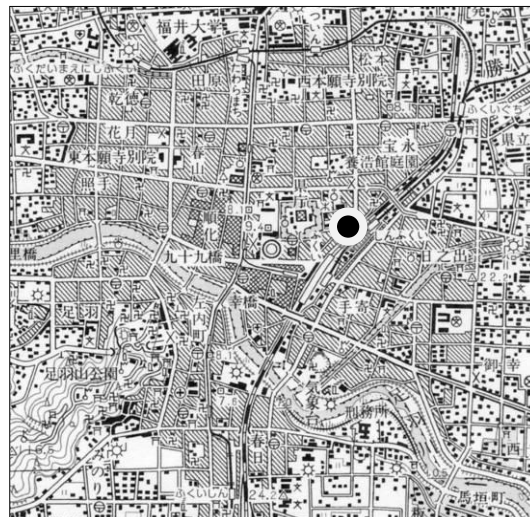
調査原因：福井駅付近連続立体交差事業

調査期間：平成26年10月1日～11月28日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：370 m²

時代：江戸



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 福井城は、慶長6～11年(1601～1606)、福井藩初代藩主の結城秀康が前身である北庄城を大きく改修して完成させた輪郭式平城です。

明治維新による廃城後、外堀は埋め立てられて市街地化が進み、福井空襲や福井地震による災害と復興を経て、県庁舎の建つ本丸の石垣と堀に面影をとどめています。城下を描いた絵図も多数現存し、現在の市街地にも絵図と共通する道路や町割りが確認できることから、発掘調査においても重要な情報源として利用されています。

今回の調査区は、えちぜん鉄道と北陸新幹線用高架との間の狭小な範囲を対象にしました。調査区の幅は広い所でも7m弱しかありません(第1図)。堀の中央部は調査区外となり、調査区は3つに分かれます。絵図によれば、調査区は中ノ馬場地区北端～百間堀(FKJ14-2-1区)、百間堀～土橋～東三の丸東側の堀(FKJ14-2-2区)、東三の丸東側の堀～元割場南端(FKJ14-2-3区)に相当し、平成17・18年度に発掘調査(北陸新幹線建設事業)を実施した調査区FKJ06-1-1区、06-1-2区、06-1-3区の東側に隣接しています。

遺構 調査の結果、各堀に面する石垣と、主に江戸時代後期以降の遺物を確認しました。

FKJ14-2-1区では、中之馬場地区北端を画して、百間堀に面した石垣を検出しました。石垣の遺存状況は悪く、最大で2段分を残すのみでした。

FKJ14-2-2区では、東三の丸三崎門へと続く土橋とその両側の堀の一部を検出しました。土橋の百間堀に面する石垣(南面石垣)は良好に残っており、3～5段分を確認しました(写真2)。東三の丸東側の堀に面する石垣(北面石垣)は、1箇所では3段分、ほかは2段分を残すのみでした。南面石垣の裏込めにおいては、一部の狭い範囲で多数の石瓦(主に丸瓦)が転用されていました。土橋中央部は攪乱が著しく、北陸新幹線調査区(FKJ06-1-2)で確認された砂利路面は残っていませんでした。

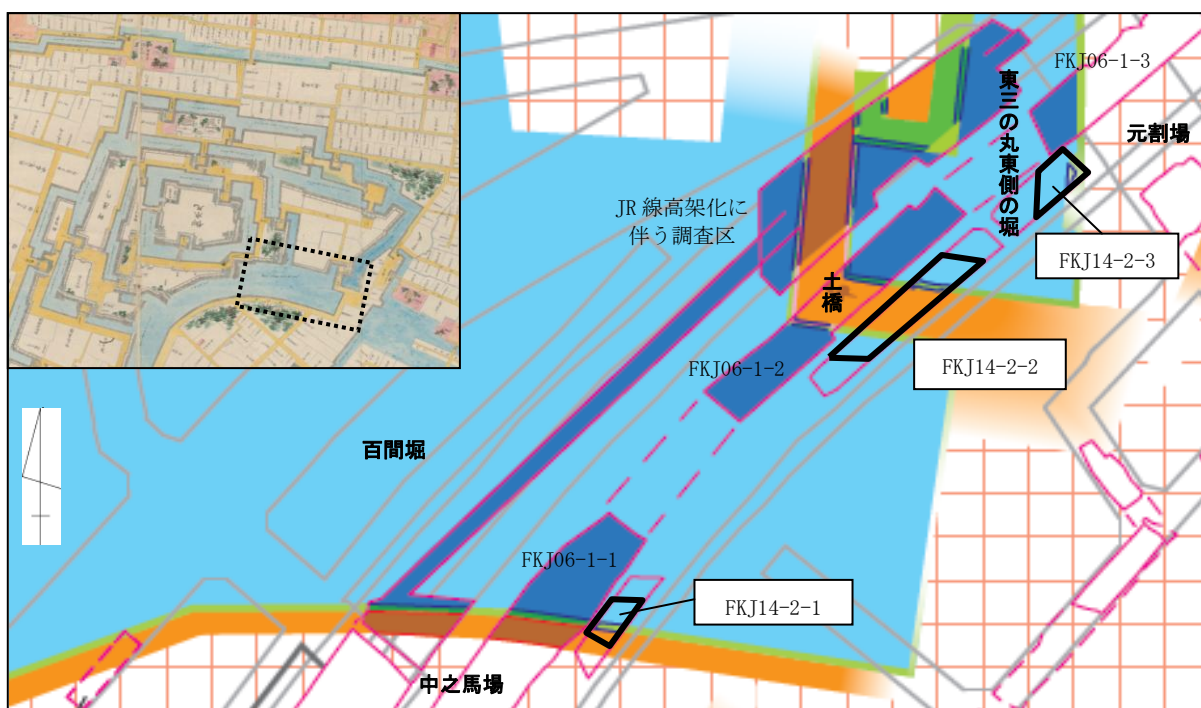
FKJ14-2-3区では、元割場南縁を画して、東三の丸東側の堀に面する石垣を検出しました。この石垣は新幹線調査区FKJ06-1-3では残っていなかったものです。

東半においては堀の中に多数の石垣石材が崩落し、原位置をとどめているのは根石のみでした。西半では最大3段分が確認できましたが、大きく前方へせり出しており、原状をとどめていませんでした。

遺物 堀の埋土からは土器・陶磁器のほか、古銭や椀、下駄などが出土しました。また、表土層から金属製の迷子札も出土しました。

まとめ 西に隣接する北陸新幹線関連の各調査区からつづく石垣や堀を検出しました。全体的に遺構の遺存状況が良いとはいえませんが、元割場南縁の石垣を確認できたことは大きな成果といえるでしょう。

(田中祐二)



第1図 調査区位置図

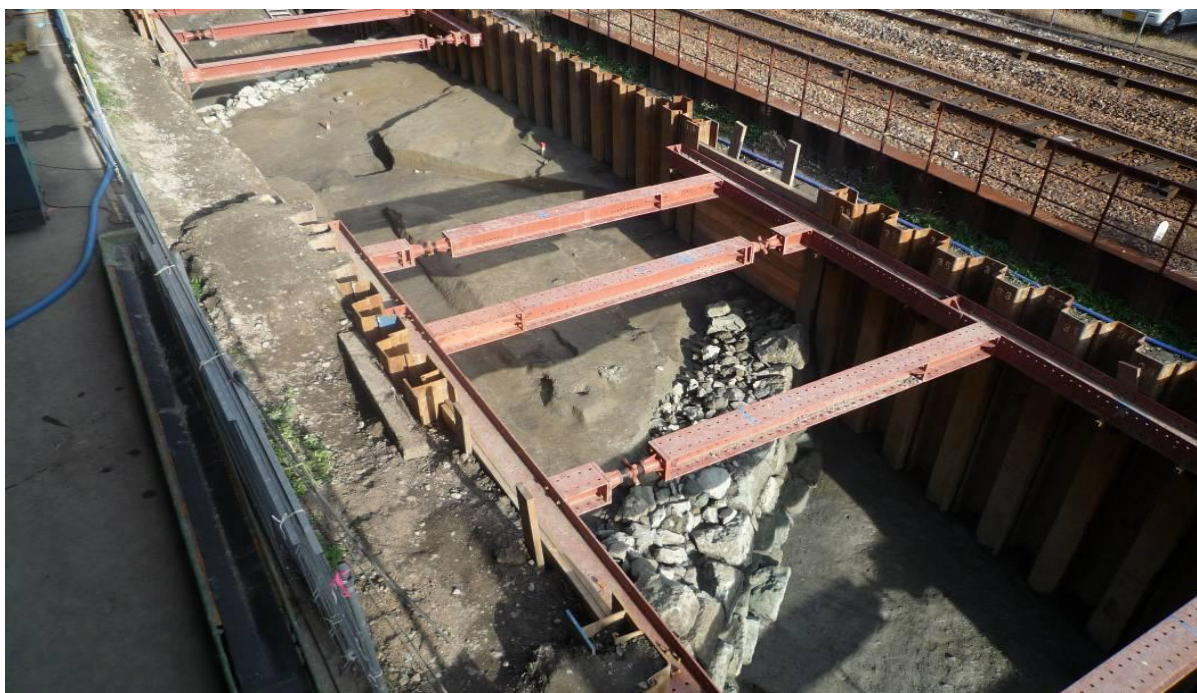


写真1 FKJ14-2-2区 土景(南西から)